
ポケモン不思議のダンジョン 夢と希望

ミュウ&ツタージャ&デスピサロ&ジンオウガ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ポケモン不思議のダンジョン 夢と希望

【Nコード】

N7913S

【作者名】

ミュウ&ツタージャ&デスピサロ&ジンオウガ

【あらすじ】

ここはポケモンだけが暮らす世界（後に変わるが）元々人間だったミュウのサイコ。そして起きた場所がポケモンだけが暮らす世界。そこでギルドに入り、色々な所を冒険してたが、16話から新マップへ変わった。しかも着いた場所は何も無い所。さらにその世界ではある危機が迫っていた。という話し（え

ブログ（前書き）

ブログです。ではどうぞ！

プロローグ

???「今日まで学校か…」

と1人の人間が呟いていた。そいつの名はサイコ。プロローグではポケモンになる前の話しを

サイコ「じゃあ行ってきました」

サイコママ「行ってらっしゃい。今日も頑張ってくるのよ」

と言われたので適当に「分かってるって」と言ってきた

まあ出発して少ししてあることを思いだした

サイコ「そういえば最近この辺で行方不明者が多数でたって話しを聞いたな。不思議だよな」

と言ってる。自分も行方不明になるとは知らずに…

サイコ「にしても速く帰ってゲームがしたいな」

まだ朝なのにゲームなどと言っていた。それはともかく学校に着いた

まあ面倒くさいので省略

そして家に着いた

サイコ「はあく、疲れた。さてゲームゲーム♪」

そう言ってゲームし始め、あまりにも夢中で夜になっていた

サイコ「やばっ！じゃあお休み！」

そう言って寝ついた

ブローグ（後書き）

さてブローグどうでしたか？ちょっと自身ありません
それでは！

第1話 不思議な夢（前書き）

はい！こんな^{カス}ks小説の連載がスタートしました！！

サイコ「あっそう（うざい）」

このときはサイコはまだ人間です（プロローグの時もそうでしたが）

サイコ「そうですか…（うざいつ！！×9999）」

ミュウ&ジンオウガ「それでは、第1話へゴー！」

サイコ「いくよ！」

第1話 不思議な夢

今日は休みの日

サイコ「まあテレビでも見よう」

といってテレビをつけた

TV「てって♪こんにちは♪こんにちワン♪ありがとう♪ありがとう
ウサギ♪こんばんは♪こんばんワニ♪さようなら♪さようならライオ
ン♪魔法の言葉で
たのし～な～かま～が～ポポポ～ン♪挨拶するたび友達
ふえるね♪A～C～」

サイコ「そういえばこの頃ACのCM少なくなったね（震災後に比べて）。」

サイコママ「サイコ～ご飯よ～」

サイコ「はい♪（ご飯のだ！いけないと）」

そう言ってご機嫌で食堂へ

サイコ「うあああああ♪ステ～キだあああ
ああああああああああああああああああ×∞」

サイコママ「うるさい！……！」

サイコ「はい↑」

どうやらステーキのようだ！

サイコ「いただきます。」

ガツガツムシヤムシヤガツガツムシヤムシヤガツガツムシヤムシヤ
ガツガツムシヤムシヤガツガツムシヤムシヤガツガツムシヤムシヤ
ガツガツムシヤムシヤガツガツムシヤムシヤガツガツムシヤムシヤ
ガツガツムシヤムシヤガツガツムシヤムシヤガツガツムシヤムシヤ

サイコ「はあ馬買^{うま}ったwごちそうさん。なんか食べたなら眠くなった
…」

サイコは自分の部屋に入り布団に入った

サイコ「おやすみ……………」

1時間後

サイコ「ここは？夢の中か？」

すると向こうのほうに光があった！そのほうへ行くと看板があった
サイコ「えっと…」「ここから先はポケダンの世界！入るべからず！

！「か…どうせ夢の中だしいじょうぶ！それ！………うわ
ああああああああああああああああああああああ
ああ………」

サイコ「はぁ～よくねた……けど今日は休みだしまた寝るか……」

そういつてサイコはまた寝た。すでにポケダンの世界に來ているとは知らずに……

30分後………

???「君！起きて!!」

という声がしたのでビックリしてサイコは起きた

サイコ「おはよう！ってポケモンがしゃべってる!!?」

???「はぁ？頭いかれてるの？普通にしゃべってるじゃない！君
も同じポケモン
じゃないか！」

サイコ「へ？」

サイコは体をよく見た…そしたらミュウになっていることに気付いた！

サイコ「ポケモンになってるじゃないかあああああああ
ああああああああああああああああああああ」

ツタン（ツタージャ）「そういえば自己紹介がおくれたね！僕はツタン！よろしく！君は？」

サイコ「（まあいい。自己紹介しとくか！）
僕はサイコ！元人間です。」

ツタン「元人間んだとおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお！！！！」

サイコ「そんなに驚かなくても…（泣目）」

ツタン「あ！ゴメン！」

サイコ「起こしてくれてありがとう！」

ツタン「なぜ今頃（汗）」

サイコ「じゃあ僕はちよつとこのへんを見てくるよ。」

ツタン「あっそう。じゃあ見終わったらここから北にあるプクリンのギルドに来るといいよ！」

サイコ「ありがとうー!じゃはいはい!」

こうしてちょっとみて回ることにした

第1話 不思議な夢（後書き）

サイコ「ポケモンになった~~~~~←←」

いやポケダンってそういう話だから！

サイコ「あっそう！（小怒）」

こんなk sな小説ですが以後よろしくお願いします

第2話 ポケモンになって初めてのバトル（前書き）

ミュウ&ジンオウガ「今回は、サイコがバトルを挑まれます！その相手とは！？」

サイコ「えっ！」

ミュウ&ジンオウガ「それでは第2話いってみよう！」

サイコ「勝ってやる！」

第2話 ポケモンになって初めてのバトル

サイコ「おっ！洞窟がある。はいつてみよ〜っと」

そうしてサイコは洞窟に入っていた…

海岸の洞窟B1F

洞窟に入って少し進んだらカラナクシが襲いかかってきた！

サイコ「わわわわわ！どうしよう。あ！そうか！技をだせばいいんだ！くらえ！はたく！」

サイコは、はたくを繰り返した。ボカ！カラナクシに命中！しかしあまり効いてないようだ！

サイコ「どんだけ、僕のLv低いんだよおおおおお！」

こんどはカラナクシのみずてっぱうがきた！その技はサイコに命中！

サイコ「うっ！」

と言ってバタと倒れてしまった。

きがつくとサイコは洞窟の外にいた
サイコ「あれ？どうしてここにいるんだ？た…し…か…うつ！痛
みがっ！ってなんだこれ？」

サイコがなんか見つけたようだ

サイコ「なんだろう？へんな力ギ。でも…このまましても…
…ひまい！そうだ！ツタンが言ってたギルドにいこう！」

こうしてへんな力ギも拾いギルドにむかうことにした

第2話 ポケモンになって初めてのバトル（後書き）

サイコ「なんか…短い！」

ミュウ&シンオウガ「だってめんどくさい」

短くてすみません！

第3話 ギルドに入門（前書き）

ミユウ&シンオウガ「今回はギルドに入門します。」

サイコ「えっ！入るの！？」

ミユウ&シンオウガ「もちろんさあ」

サイコ「このさきどうなるのやら（汗）」

ミユウ&シンオウガ「それでは第3話いってみよう」

サイコ「いくぜ！」

第3話 ギルドに入門

サイコが飛んで3分????

サイコ「ここかぁ。でも門がしまってる…。それに地面にある網目あみめはなんだろう？」

と考えていると…

???「どうしたでゲスか？」

ゲスがくちぐせのビツパがきた！。

サイコ「入りたいけど…入り方がわからなくて…」
ビツパ「そうだったゲスか…こうするんでゲスよ。」

ビツパが網目に乗ると…

????「ポケモン発見！ポケモン発見！誰の足型？誰の足型？足型はビツパ！足型はビツパ！」
????2「よし！いいぞ！」

ゴゴゴゴガタン！門が開いたようだ！

ビツパ「入っていいでゲスよ」
サイコ「はぁ〜ビツクリした〜」

そして中に入るとツタンが待っていた。

ツタン「やっぱり来てくれた！」

サイコ「なんか忘れてるよな。」

ツタン「たとえば、ダンジョンに行ったとか。」

サイコ「あゝそれぞれ。………っう！」

バタ！

ツタン「だだだいじょうぶ？わわわそんな急に倒れても（汗）」

ツタンは弟子部屋に運ぶ事にした。

サイコ「うつー！ここは…ギルド？だよな。たしか…ツタンと話してた時に倒れて…運ばれたのかな？とりあえず報告に行こう！」

そうしてしばらく歩くと…誰かが話をしていたのでこっそし聞いてみた。

「…？」であのサイコとやらは起きたかい？

ツタン「いいえ。今のところ…」

「…？」「これからサイコ君をどうするのか？」

ツタン「自分で決めさせます。」

「…？」「そうか…話しは以上だ！早く戻って看病してやりなさい！」

ツタン「はい！」

どうやら話しは終わったようだ。

サイコ「まあこのまま隠れててもしょうがないし部屋に戻るか！」

そして部屋に戻って少ししたらツタンが来た。

ツタン「サイコ君起きてたんだ。」

サイコ「うん！おかげでだいぶよくなったし。」

ツタン「そういえばこれからどうするの？」

サイコ「ん？そうだな？」

ツタン「じゃあ探検隊でもやったら？」

サイコ「うん！そうする！」

ツタン「あ！でも…僕もすでにチーム組んでし…。」

サイコ「大丈夫！1匹でもいいよ！」

ツタン「そう！ならいいや！じゃあ親方の所へ手続きしにいくう！」

サイコ「そうだね！」

そしてツタンに連れられてドアの前まで来て…

ツタン「コンコン（ノック）サイコ君が弟子入りするそうです！それではしつれいします。」

そしてドアを開けるとプクリンが立っていた。（後ろ向きに）

プクリン「やあ♪きみが例のサイコ君だね♪弟子入りするの？じゃあチーム名は何にするの？」

サイコ「そういえば…ん？（無双転生でいいか！うん！）決まりました！無双転生で！」

プクリン「わかった♪……………」

………たあ~~~~~！！登録完了したよ♪それと君はソロだからちよつと特別な探検キットをあげる♪」

サイコは探検キットSPを買った

サイコ「えーつと中にはトレジャーバッグと探検バッチがはいっ

てた！しかもトレジャーバッグの中には復活の種×5とピンクリボンとオレンの実×10が入ってる！ありがとう親方！」

こうして、サイコは探検隊を始めたのであった

第3話 ギルドに入門（後書き）

ミュウ&ジンオウガ「無双転生ってwwwwww」

サイコ「おい！」

ミュウ&ジンオウガ「んじゃ次回もよろしく！」

第4話 初めての依頼（前書き）

ミュウ&ジンオウガ「今回はサイコが依頼に挑戦します♪」

サイコ「大丈夫かな…（汗だく）」

ミュウ&ジンオウガ「視聴者さん前回はすみません。間違いが大量に（DSIブラウザーで書いてるので…）なので間違いがあったときは指摘してください。おねがいします（土下座）」

サイコ「そこまでしなくても…」

ミュウ&ジンオウガ「ではきをとりなおして、第4話スタート！」

サイコ「いくぜ！」

第4話 初めての依頼

次の朝

?????「おきろおおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおお!!」

サイコ「っう!!頭がきんきんする…」

ドゴーム「俺はドゴーム!!起きるのが遅い弟子の起こし役でもある!!早くしないと朝礼が始まるぞおおおお!!」

サイコ「わかった…」

そう言つてすぐに朝礼に行った

ペラップ「遅い!!!ったく!!」

サイコ「すみません」

ペラップ「ったく(2回目)さて親方!全員集まりましたよ!!」

ブクリン「……………え!…もう…もうちょっと寝たかったな」

ドゴーム「えっ!ヒソヒソ(寝てたの)」

どうやら寝てたようだ

ブクリン「今日もはりきつていくよー!」

全員「おおー!」

そういつてみんな散らばった

しかしサイコはなにをしていいかわからずあたふたしていた

ペラップ「サイコ!そこで何あたふたしてるんだい!こっちへきなさい!」

サイコはやることもないので一応行くことにした

ペラップ「今日は依頼をこなしてもらっようん？ そうだ！ おーい！ ツタンシーー！ 」

数秒後

ツタン「はい？ なんでしょうか？」

ペラップ「サイコ君の依頼を選んでやって！」

ツタン「はい！ わかりました！ サイコ君。こっちに来て！」

と言われたのでついて行くと…

ツタン「これは依頼の掲示板。えーっと…よし！ これがいい！ 」おねがいします。私の真珠が盗まれました。そして湿った岩場に捨てられたらしいのです。なので取りに行こうと思ったのですが敵が強くて行けません。なのでかわりにとりにいってください。よろしくお願いします。byバネブー」んじゃ頑張ってるね。」

サイコ「ありがとうございます。ではいつてきます」

そう言っ出ていき飛んで2分…

湿った岩場入り口

サイコ「依頼によるとこのB7Fにあるようだね。ではでは出発！」

湿った岩場B1F

サイコ「階段を探せばいいんだよね。」

すると……ビチャーンと音を立てて出てきたのはカラナクシだ！

サイコ「わわわわっ！あ！ポケモンなんだから技を出せばいいんだ！くらえ！はたく！！」

ボカ！見事に命中！そしてカラナクシは倒れた

サイコ「やったー！でも海岸の洞窟ではあんまり効いてなかったのに……」

そう考えながらとうとうB7Fまで来た

サイコ「ここが1番奥か…それにしても真珠はどこにあるのだろう」

と探していると…

サイコ「あつた！！これかあ。綺麗だなあ。さてもって帰るか。」

サイコは急いで湿った岩場を出たそしてギルドに向かった。そしてらバネブーが待っていた

バネブー「これですこれです。ありがとうございます。これおれいの2500ポケです。」

サイコ「わあこんなに！いいの？」

バネブー「いいですよ！真珠にはかえられませんから。」

と言って嬉しそうに帰っていった

サイコ「わーい。いきなり大金持ちだー」

ペラップ「あゝ忘れていたが君が貰えるのはこれだけだ」

と言ってポケを取り上げて渡してくれたのはたった100ポケだった

サイコ「えーこれだけ!？」

ペラップ「我慢なさい!あんたが探検隊を出来るのはギルドがあつてこそなのだ!」

サイコ「はい…!」

と肩を落としていると

チリーン「チリンチリーン(ベルの音)ご飯の用意が出来ました。」

サイコ「やったーご飯ご飯ー!」

そして急いで食堂にむかった

ペラップ「せーの!」

全員「頂きまーす!」

省略OTZ

サイコ「あーおいしかった!」

と言って弟子部屋に行き

サイコ「さて!日記も書いたし寝よう…お休み…」

こうして眠りについた

第4話 初めての依頼（後書き）

ミュウ&ジンオウガ「はあつかれたそれと一部手抜きでOTZor
Z」

サイコ「もー」

ミュウ&ジンオウガ「次回から前書きor後書きにはほかの登場ポケモンもだします！お楽しみに」

第5話 時空の叫び 前編（前書き）

ミュウ&ジンオウガ「ってか時空の叫びってなんだっけ？」

サイコ「おい！攻略本を持ってるんだからそれを使い！」

ミュウ&ジンオウガ「あっ！そうか！」

サイコ「てかさそろそろ始めろよ！」

ミュウ&ジンオウガ「はいはい（汗）ではでは第5話前編へゴー」

サイコ「スリーp：あっ！言ってしまった！（汗）」

第5話 時空の叫び 前編

次の朝（おなじパターンw）

ドゴーム「サイコオオオオオオオオオ！起きr……………」

……………
いない！？」

ドゴームはサイコがないことに気づき急いでプクリンの所へ言った

ドゴーム「親方！サイコが居ません！！」

プクリン「あゝサイコならもう依頼を受けてゝもう出発したよゝたしかギルドに取られたつていっぱい依頼をしたら稼げるとか言つて出ていったよゝでもトレジャータウンを紹介してないからそのうち傷だらけになって帰ってくるよゝ」

ドゴーム「親方……………それ……………大丈夫なんですか？……………」

プクリン「全然ゝ（笑）。でもねある店を紹介するからいいのゝ」

ドゴーム「ある店？どんな店ですか？」

プクリン「ひゝみゝつゝゝ」

ドゴーム「こすかゝ（せこい）」

プクリン「さつゝもうすぐ朝礼を始めるよゝ」

というわけで朝礼

ペラップ「サイコが居ません！」

プクリン「あゝそれなら……………」

プクリンはいままでのことをペラップに話した

ペラップ「馬鹿だ…（ため息）」

プクリン「それじゃあ今日もはりきっていくよ」

全員「おおーーーーー」

と言ってみんな散らばった

とそのとき

チリーン「親方！サイコさんが傷だらけになって帰ってきました。
プクリン「いまいくよ」

プクリンはサイコの所には行ったがなぜか走らなかった

プクリン「おまたせ」

チリーン「親方おそいです」

プクリン「ごめ〜ん」（へんなお面を目の所にあてて）

チリーン「いきなりで悪いんですが。このギルド…回復のスペシャ
リストがいません！（親方なにへんな事やってるのか？）」

プクリン「そう言うと思った」。入ってきていいよ」！

すると2匹のポケモンが来た。1匹目はラッキー。もう1匹はタブ
ンネ

タブネス「私タブンネのタブネス」

ラクラ「私はラッキーのラクラです。みなさんどうぞよろしくお願
いします」

プクリン「こっちがリーダーのタブネスでこっちがラクラ。僕の同
盟ギルドから来たよ」

全員が疑問に思う

プクリン「ではでは出発っ」

サイコ「おおー←（不安だ…）」

というわけで嘆きの森なげきのもりに来た

嘆きの森1F

サイコ「うつつもうあんな思いたくない」
プクリン「大丈夫♪僕が守ってあげるから」

すると

バサン！！

と音を立ててホイーガが出てきた

サイコ「たぁー！！気合いパンチ！」

するとホイーガは500mぐらいとんでいった
サイコ「凄い（。o。）」

というわけで順調にすすみもう森の奥深くまできた。すると1つの店があった

第5話 時空の叫び 前編（後書き）

ミユウ&ジンオウガ「やっと終わった…これ書くのに丸1日かかった」

サイコ「どんだけえ〜」

ミユウ&ジンオウガ「んじゃ疲れたからノシ」

第6話 時空の叫び 中編（前書き）

ミュウ&ジンオウガ「今回はあるゲストが来ていますう。一稀親方です。どうぞっ！」

一稀「前回の話しに出てきた同盟ギルド、親方の一稀だ！よろしくっ！」

ミュウ&ジンオウガ「では第6話」

サイコ「どうぞっ！」

一稀「まてええええええええええええええええええええええええ、勝手に話しを進めるなああああああああああああああ」

ちゅどーーーーーん！どかーーーーん！

なにかの爆発音がした！！

プクリン「まだ、飽きたー」

サイコ「親方！心配しなくていいんですか？」

プクリン「いいの、いつもの事だから」

サイコ（親方に言っても天然すぎて何も通じない…とにかく行ってみよう」

そして行ってみると黒い煙で見えないがこっちはライクであっているんだが、もう1匹いることに気づいた。

サイコ「ゴホッゴホッ（んん？あれは人間のころに見た事があるよ
うな……）ああー！わかった！でもポケモンじゃないし…」

と考えていると

????「また、失敗してしまいました。ゲホッゲホッ」

サイコ「（やつぱり！でもどうして？）」

????「あなたサイコさんですね。失敗してすみませんです」

サイコ「大丈夫です。はい」

答えは誰かはわかっているが一応聞いてみた

サイコ「君は誰ですか？」

まめっち「あ！紹介を遅れました。僕はまめっちです。僕は見てのとおりポケモンではありません。じつは……」

省略

サイコ「そういうことか。」

ミュウ&ジンオウガ「かわりに僕が説明します。まめっちは実験が好きで地球に行きたくて。そういう装置を作り、起動しました。しかし着いた所はポケダンの世界だった……と言っわけ。以上！」

サイコ「作者いつの間に……」

まめっち「もう夜だし寝ていいよ」

サイコ「ありがとう。お休み」

まめっち「お休み」

次の朝

プクリン「たぁー……………！！サイコ君起きて……………」

サイコ「ううー！ドゴームより声がでかい……」

バタ

あまりに声がでかいので気絶してしまった

プクリン「てへっ」

それから1時間後

サイコ「うつうつ!! 気絶していたのか…」

とそのとき

ライク「できたZ E」

サイコ「できたんだ! 行ってみよう」

そして行ってみると

サイコ「すごい! 武具だ!」

テーブルに置いてあるのは双剣? 鉄の兜? 鉄の鎧が置いてある。しかし重すぎないだろうか?

サイコ「よいしょ。重い(汗)」

見事に的中。しかしプクリンは

プクリン「大丈夫♪ 大丈夫♪ そのうち慣れるから♪」

サイコ「そう言えばこの双剣の名前は?」

ライク「もちろん鉄の双剣」

サイコ「だよね。見る限り鉄にしか見えないもんね」

プクリン「それじゃあ行かないと。バイバーイ♪」

ライク「バーイ」

こつしてライクとまめっちにわかれを告げギルドにむかつのであつた

第6話 時空の叫び 中編（後書き）

サイコ「親方の天然にもほどがあるよ」

一稀「んだな！」

ミユウ&ジンオウガ「それでは後編もよろし！」

一稀「（また話をそらされた…）」

第7話 時空の叫び 後編

1時間後…

重い武具のせいで行くときの2倍もの時間がかかった。そしてやっとついた

サイコ「はぁ…はぁ…やっと着いた…重いせいで飛ぶことも出来なかった……」

プクリン「ドンマイ♪（笑）これからこれを着こなせるように、地獄のような特訓をするからね」

サイコ「うそおおおお（泣）」

プクリン「あゝそういえば、トレジャータウンを紹介してなかったね。今から紹介するよ」

サイコ「本当？ありがとう」

プクリン「でも、そのあとは地獄の特訓ね」

サイコ「わかってるって（うわ〜ぜったいしぬ〜）」

プクリン「ではでは出発〜」

それから3分後

プクリン「ついた〜ここがトレジャータウンだよ」

サイコ「ほ〜結構広い」

プクリン「では、まず一番近くにあるこの店はヨマワル銀行って言ってP^{ボケ}を預けたり引き出したりできるところなんだ。次僕たちの左側にあるこの建物はガラガラ道場って言って鍛える所なんだ。次は

あの黄色いたてもの、あれはエレキテル…じゃなくてエレキブル連結店で技を連結する事が出来るんだけど…今日は居ないみたいだね。次！あのピンクい建物はお世話屋ラッキーって言ってなんか出来る所。次は向こうのエリアを紹介するよ。」

サイコ「何があるんだろう」

というわけで隣のエリアに行った

プクリン「ここにはついこの前できた新しい施設があるんだ、そこも紹介するよ。まず目の前にあるあの2人組が居るあの見せはカクレオン商店とカクレオン専門店でいろいろ売ってあるよ。次、あのガルダ倉庫と言って道具を預けたり引き出したりできるよ、次は新しくできたトレジャ―農場、いろいろな事が出来るよ。あのガラ―ラ倉庫の隣にある地下通路を100mぐらい進むと行けるよ」では帰ろう。」

サイコ「はあゝって、ん？あれなんだろう」

プクリン「どうしたの？」

サイコ「あそこに倒木があるんだけど見てもいい？」

プクリン「あ、見てもいいよ」

というわけで見に行った

サイコ「わあゝすごい！触ったらギシギシいうのかな？」

サイコのこの好奇心はどこから来るのだろうか？

サイコ「触ってみよう」

触ってみた、しかしその瞬間！

サイコ「（なんだ！め、めまいか？たぶん疲れたのだろう）」

そしたら頭の中で閃光が走り、ある映像が見えた

サイコ「（なんだこれは？何かの怪獣にトレジャータウンが襲われている！？）」

しかし急に映像が消えた

サイコ「なんだったんだろう？よし親方に聞いてみよう」

というわけで急いでプクリンの所に戻った

サイコ「ねえ親方！」

プクリン「なあゝにゝゝ？」

サイコ「昔このトレジャータウンがなんか怪物に襲われた事ある？」

プクリン「うんあるよ、実は……………」

プクリンの話によると丁度1年位前にジンオウガ（よーするに僕ですw）という別世界から来た怪物がトレジャータウンに来ていきなりここをくれと言い出して住人はそれを断り、そしたらジンオウガというやつが家や木、店を壊し始めて最後に1年後にまたくると言ってどこかに行ってしまった

プクリン「というわけ、わかった？」

サイコ「（。ω。）話し長い（。ω。）」

プクリン「そして来るのが明日ゝ」

サイコ「……………」

.....(。|。)はあああああああああああ
ああああああああ!!?」

プクリン「ギルドは全員参加だからね」

サイコ「オワタ(＾q＾)」

プクリン「それとジンオウガは部下をもってるらしいから注意してね、一稀とコザトとそのギルドの仲間たちもくるからね」

サイコ「てかなんで僕に教えなかったの？」

プクリン「ちよい気分で」

サイコ「ふざけるなあ、」

プクリン「まだお昼ごろだし特訓をしよう」

サイコ「アイアイサーノ(＾|＾)」

というわけでトレジャータウン案内を終わり、地獄の猛特訓を始めることにした

第7話 時空の叫び 後編（後書き）

やっと出来ました！

サイコ「うへえ」

さて今回は地獄の猛特訓編です

サイコ「うへえ」x2

ではまた次回！

第8話 サイコ在地獄の大特訓その1（前書き）

サイコ「久しぶりだよな…」

一時の間やる気無くしてたからね（汗）

サイコ「ではでは、第8話の始まり始まり〜！」

そう言えばツタンが居ない…

第8話 サイコ的地獄の大特訓その1

プクリン「…というスケジュールです」

サイコ「どんだけえ」

というのもそれは5分前の話し……

プクリン「今から地獄の大特訓のスケジュールを発表します。まず13:00からガラガラ道場で電気の間を10回して13:30からトレジャー農場の中を100周、14:00からはギルドXスト^{エックス}リームと練習試合をして16:00からはXストリームのメンバーと一緒に依頼をこなす、というスケジュールです」

というわけ

サイコ「質問！Xストリームってなんですか？」

プクリン「同盟ギルドだよ、あの一稀とコザトの居るあのギルド」

サイコ「もう1つ、鎧等は着たまんまですか？」

プクリン「もちろんさあ」

サイコ「重いだろ……」

プクリン「では出発」

ビッパ「行ってらっしゃいでゲス」

タイプは普通のダメージなんだけどね
するといきなり

シママ「てめえ！ここを通りたければ俺と勝負しろ！」

ビッパ「望む所でゲス」

シママ「電気ショック」

ビッパ「急にしないでゲスうゝギャーーーーーでゲス」

バタ！

ビッパはなんとB1Fで倒れた…

続いてキマワリ

電気の間 B1F

キマワリ「電気なんてキャーですわ」

何言ってるか理解不能

と言ってるあいだに

ピカチュウ「君…うるさいよ！」

キマワリ「花びらの舞いですわ」

ピカチュウ「うぎゃあああああああ！…」

バタ！

キマワリ「勝ちましたですわ。にしてもビッパちゃんは大丈夫でしょうか…」

すでに殺られてます（笑）

とキマワリは順調に進んで行き
ついに

電気の間 B5F（BOSS）

キマワリ「何か広い場所に着きましたわ」

すると

ライボルト「ここまで来たか…相手をしてやろう！かかってこい！」

キマワリ「葉っぱカッターですわ！」

ライボルト「ひょいっと、くらえ！拡雷弾！！！」

なんと電気をまとった小爆弾が襲い掛かってきた！

キマワリ「なんですわ、きゃあああああああ！！！」

バタ！

キマワリは最後の最後でライボルトのオリ技でKO負け

次は、ダグトリオ？ディグダです

電気の間 B 1 F

ダグトリオ「簡単簡単！」

ディグダ「どうして？」

ダグトリオ「それは…俺達は地面タイプだからだ」

ディグダ「そうなんだ、すごい」

すると

パチリス「君達、何しに来たの？」

ダグトリオ「ここで修行をしろと親方に言われたから来たのだ」

パチリス「なら私が相手になってあげ？」

ディグダ「いくぞ！地…」

パチリス「食らいな！体当たり+20」

どんだけカテキンを飲んでるのやら…、しかも不意に

ディグダ「うわあああああああ！！！」

バタ！

る事になった

サイコ在地獄の大特訓その1（後書き）

実はそのに分けたのは理由があります。僕の気力は充分あったので最後まで書くつもりだったんですが途中で入力不可能になってしまいました。多分10000字は超えてとは思いますが、でもPSPだと520字ぐらい入力するとそれ以上は書けなくなります、何ででしょうか

まあそれは置いて次回はプクリン？ペラップ？ツタン？サイコが電気の間に挑みます。

ビッパ「意外と強かったでゲス……」

キマワリ「もう本当キヤー……！！ですわ」

ドゴーム「そういえばわしは」

ギルドで留守番（笑）

ドゴーム「でも読者の皆さんには言っていないよな……」

それも次回につ！

サイコ「お前実は作者に忘れられてたんだぞ……」

ちよ、ちよまつ。

ドゴーム「ハイパーボイス!!」

うわあ あああああああああああああああああああああ

あ
!
!
!
!
!
!
!
!
!
!

バタ↑気絶しました（笑）

ツタン「そのままじゃ負けるぞ……」

ジンオウガになれば100人だあああ！！

サイコ「では」

俺の台詞が
あああ！！

第9話 サイコの地獄の大特訓その2（前書き）

その2でっせ

サイコ「何？その言いかた…」

何となくだZe

ツタン「作者が壊れた！」

何でだよ！！

ツタン「第9話どぞっ！」

また俺（僕）の台詞がああああああ

第9話 サイコ在地獄の大特訓その2

そいえば言い忘れてましたが、ギルドのみんなが行った電気の間はLv7だったから強く感じたんです。しかしプクリンは親方という事もあってLv10に行った（ペラップもな）（Lv順は、最弱↓Lv1↓Lv2↓Lv3↓Lv4↓Lv5↓Lv6↓Lv7↓Lv8↓Lv9↓Lv10↓強Lv1↓強Lv2↓強Lv3↓強Lv4↓強Lv5↓強Lv6↓強Lv7↓強Lv8↓強Lv9↓強Lv10↓最強、という順番です、最強の上もある）

電気の間Lv10 B1F

ペラップ「なんで私も…」

プクリン「気にしない気にしない…」

するとそこへ

チヨンチー「あの…あなたがプクリンさんと鳥さんペラップですね」

ペラップ「誰が鳥じゃい」

一応鳥ですが…

プクリン「そのとおり…」

ペラップ「少しは否定をしてよぉ」（泣）「

チヨンチー「放電！」

プクリン「守る！」

プクリンは守るで防いだが…ペラップが……ね……

ペラップ「うぎゃあああああああああああ……！！！！！！
！お……や……か……た……な……ん……で……私……も……守……つ……て……く……
れないんですか………」

バタ

ペラップは放電の威力により倒れた（笑）

プクリン「忘れてた……てへっ……」

これがガラガラ道場の外だったら死んでるぞ……絶対

プクリン「たあああああ！！！」

プクリンは通常攻撃で攻撃（つまりAボタン）

チョンチー「うっ！」

プクリン「とどめだ！メラゾーマ！！！」

大きな火の玉がチョンチーに襲いかかる

チョンチー「うわあああああ……！！！！！」

バタ

見るとチヨンチーは黒焦げになって倒れていた

プクリン「殺り過ぎちゃった」

てか普通ポケモンがメラ系出すか？

プクリンは順調に進んで行きついに

電気の間Lv10 B5F（BOSS）

ライチュウ「よく来たな！」

プクリン「まあ修行だしね。いくよ」

ライチュウ「おう！エレキボール！」

プクリン「守る！」

プクリンは守るでエレキボールを防いだがライチュウは守るをするのを分かってたように

ライチュウ「そう来ると思ったぜ！フェイント！」

フェイントは守るを破りプクリンに直撃

プクリン「ぐっ！だがこのために新しい技を編み出してたんだ」
く
らえ、大地の怒り！」

地震より凄い揺れがライチュウに

ライチュウ「ぐっ！うわあああああああ！！！」

バタ！

ブクリンはなんとかクリアした

電気の間Lv10クリア

サイコは鎧等を装備してるからLv3で（鎧無しだとLv1）ツタ
ンはその付き添い役で同じ

電気の間Lv3 B1F

サイコは真剣な顔をしてるがツタンが暇そうにしている

サイコ「やるぞ〜出てこ〜い！」

すると

ピチュー？プラスル？マイナン「うるさいな〜も〜」

サイコ「ねえねえ！戦おうよ！」

ピチュー「の」

プラスル「ぞ」

マイナン「む」

ピチュー？プラスル？マイナン「ところだ」

サイコ？ツタン「何その言い方…」

ピチュー「いくぞ！雷巻」

電気の竜巻がサイコ達に襲いかかって来た

サイコ「そう言えば鉄って電気との相性×じゃん。だって…」

鉄ってほとんど抵抗がないですからね

抵抗がほとんどない＝電気を通す

サイコ「ヤ…バ…い…ね…」

ツタン「別に、僕草タイプだし」

サイコ「オリ技があったらな

……………そうだ！」

サイコは自分の持っている双剣を地面に刺し、こう唱えた

サイコ「双剣シールド」

すると刺した双剣と双剣の間からとても分厚いシールドが出現して
雷巻を受け止めた

ドカーーーーン！！

そして爆発！

電巻は消えたものの双剣シールドはまだ残っている

サイコ「やった〜、ん？」

実は受け止めたのではなく跳ね返してるってことを、証拠に

ピチュー「な…ぜ…跳ね返した…ガク…」

そういつて気絶しました

サイコ「……………すげえ！」

そして順調に進み最後のBOSSも

電気の間Lv3 B5F(BOSS)

ツタン「ツルのムチ！」

バチュル「ぐはあ！」

バタ！

1発で終了

電気の間Lv3クリア

一方、ギルドでは

ドゴーム「なんでわしだけ留守番なんだ！……………！」

といってる間に

第9話 サイコの地獄の大特訓その2（後書き）

微妙な終わり方だな

って誰も居ない……

スタッフ「今特訓中です」

あっそう、では

第10話 サイコ的地獄の大特訓その3（前書き）

やっと第10話までいきました！

サイコ「ハードル低っ！（汗）」

あ！それとミユウ&ジンオウガからミユウ&ツタージャ&ジンオウガに変更しました！

ツタン「長っ！（汗）」

それでは記念的第10話どうぞっ！

アラシ「アラシの修行もよろしくっ」

おい！（汗）

しばらく歩くと

ジンオウガ「お！サキシタウンあった！たしか今の時間はガラガラ道場に行ってるはず…」

とにかく行ってみた

ジンオウガ「お！やってるやってる！ってん？あれ…ポケモンじゃないぞ」↑お前もだろ！

スラリン「スラ？ストライク！」

スラリンとよばれるスライムはスラ？ストライクとよぶ特技を使った

メタリン「なんの、メラ！」

メタリンとよばれるメタルスライムがメラという呪文を唱えた
さらにその2メートル先には

一稀^{かずき}「いくぜ！ダブル魔人斬り」

一稀とよばれるエンペルトが両手に持つてる斧を大きく溜めて振り下ろした。そう、このかたがXストリームの親方の一稀である。一方…

コザト「そうはさせるか！フレイムガード！」

コザトとよばれるリザードンが炎の壁を作り、防いだ。このかたが副親方のコザトである。更にまだまだ居るがネタバレという最大の難点があるため言えません

ジンオウガ「そうそう」

あ！言い忘れてたけどここはガラガラ道場の屋外練習場です

ジンオウガ「おい！作者の俺さえ知らなかったとはどういう事だ！」

さっき思いついたので

スラリン「なんか声がしない？」

メタリン「たしかに、ジンオウガでも見てるんじゃない？例えばあそこか」

メタリンが差した所には偶然ジンオウガが居た

メタリン「って本当にいる！（汗）」

スラリン「わあお、メタリンって凄い能力を持っていたんだね」

メタリン「いやいや、奇跡です（汗）」

だがジンオウガは気づかれてる事に気づいてない

ジンオウガ「なんか、こっちを指差してるような…、まいっか！」

おい！（汗）

ジンオウガ「さて、ギルドに帰るか！」

あれ？ギルドってあるの？もしかして部下ってギルドの弟子って事！？え？いや、何でもありません
まあサイコ達に戻りまひよ

ブクリン「全員OK」

みんな間に合ったようだ

サイコはというと高速移動を使い何とか間に合った

第10話 サイコ的地獄の大特訓その3（後書き）

その何まで続くんだろ…

……っ
てやつは居ない
では！

第11話 サイコ的地獄の大特訓その4（前書き）

こんにちは！今回は魔界の王子と天界の姫の登場キャラクターが出てきます

サイコ「練習試合もするんだよ」

Xストリームのこの前登場しなかったキャラも登場します

ツタン「では第11話スタート」

最後にお知らせがあります

第11話 サイコ的地獄の大特訓その4

14:00

プクリン「もうそろそろくるかな？」

Xストリーム達を待っていた。すると…

一稀「待たせたな」

プクリン「みんな♪Xストリームのみんなが来たよ♪」

キマワリ「あの…親方、みんなここに居ますよ」

プクリン「てへっ！（チッ！）」

なんかプクリンが怖くなってきている…

プクリン「まずスラリンVSキマワリをしよう♪」

スラリン？キマワリ「え〜！」

プクリン「んだとおらあ〜！」

スラリン「ひいー！」

キマワリ「（親方…らしいですね）」

そっいいながらも練習場に立った

プクリン「では、始め!!」

スラリン「(キマワリさんってどう戦うんだろっ…)」

キマワリ「花びらの舞!!」

スラリン「(そうか!草タイプか!)リーフシールド!!」

草タイプの攻撃だと分かりリーフシールドを出した

カーン

リーフシールドは花びらの舞を跳ね返した。そしてキマワリに直撃

キマワリ「キヤアアアアアア!!」

バタ!

あれ?こんな威力あつたっけ?もしかしてリーフシールドって跳ね返すだけじゃなくて威力も上げて跳ね返すてきな?

プクリン「次はメタリンVSドゴーム」

ドゴーム「あんなギンギンには負けない!!」

そうつな気合いを持っているドゴーム

メタリン「ヘッハッハッハ(笑)」

なんとドナ・ド笑い方をしている

プクリン「では、始め！」

とプクリンが言った瞬間

ドゴーム「エターナルボイス!!」

ハイパーボイスよりも大きい音が響き渡る

メタリン「うっ！これドラクエだとマインド系だね

メタリンがひるんでる間に

ドゴーム「気合いパンチ!!」

ゴーン!

鈍い音が聞こえた

ドゴーム「いつ！いつてえええええ!!!!」

しかし

バタ!

メタリン「……………」

メタリンは完全に気絶している

ドゴーム「あれ？」

ドラクエのメタル系は防御は高いけどHPが非常に少ない

ブクリン「じゃあ次は」

一稀「ジীগVSサイコだ！」

ジীগ「（悪魔の力でも使うか）」

一稀「では、始め！」

ジীগ「悪魔の剣「つるぎ」！！」

すると持っていたダークランスが1本の黒い剣「つるぎ」に変わった

サイコ「面白くなりそう」

ジীগ「暗黒斬り！！」

さらに黒く帯びた剣で斬りつける

サイコ「ぐっ！！もしかして容赦なくやってるよね？」

ジীগ「もちろん」

サイコはエスパertypeなので悪系は効果抜群だ、なので結構ダメージを受けている

サイコ「高速移動！」

高速移動を使つて素早さを上げた

ジীগ「波動砲!!」

ジীগの波動のエネルギーが放出された

サイコ「わっ！」

ドカーン!

サイコはよけきれず波動砲が当たってしまう

バタ!

サイコ「……………」

煙りが引くとサイコは気絶していた

ジノウガ「（主人公が負けてどうする! まあ元人間がポケモンになつてバトルが上手いわけないか!」

またもや見に来ている。でも自分のギルドに行つたんじゃない…

一稀「次はシロップVSツタン」

ツタン「来た!」

シロップ「負けませんわ」

さてツタンは天使の力に勝てるのだろうか

一稀「では、始め！」

シロップ「天空の槍！」

なんとシロップの手元のストームソードが水色の槍に変わった

シロップ「受けなさい！旋風突き」

風をまとった槍でツタンに突く

ツタン「ぐっ！負けるか、リーフブレイド！」

しかしリーフブレイドはシロップが速すぎて当たらなかった

シロップ「残念（笑）とどめよ、天空の暴火！」

水色の炎が放たれて、ツタンに当たる

ツタン「うわあああああ！！！！！」

バタ！

ジンオウガ「Xストリームってどれだけ強いんだ（汗）」

一稀「次は……って！もう時間じゃん！」

というわけで

（15：00）

プクリン「さあ、まず一緒に行動するチームを発表するよ」最初は
無双転生のサイコとジェネラルリーのツタン、ザーガとデビルエ
ンジェルのジーク、シロップ」

サイコ「ジーク君！一緒にだね。」

ジーク「おう！」

一稀「続いてスライズのスラリン、メタリン、ミイホン、スライバ
とキマワリとビツパが同じチームだ！」

スラリン「キマワリさんと一緒」

キマワリ「一緒ですわね」

スライバ「（ぐだらん…）」

第11話 サイコ在地獄の大特訓その4（後書き）

（お知らせ）

サイコ達を新マップへ移動させようと思います。4大大陸をがあります。北（上）のローラル大陸にあるローラル王国には色々な種族がすんでいます。南（下）のソロリア大陸にあるソロリア王国には主にポケモンとモンハンのモンスターが住んでいる。西（左）のバリル大陸にあるバリル王国には主にドラクエのモンスターやそのほかの生き物が住んでいる。東（右）のモクロア大陸にあるモクロア王国には人間や色々な種族が住んでいます。この大陸のどれかに住んでみたい人、キャラを募集します。詳しくはいつか。
では！

第12話 予定外（前書き）

サイコ「予、予定外！？」

うん！俺に倒されるんだな！！

ツタン「ようするにジンオウガが来るって事だよね？」

……………別にそういうわけじゃ……………

ザラキ「バレバレ！たとえダーマ親方にたのまれたとはいえ、なぜこんなやつの味方にならないといけないのだろうか」

聞こえてる！

ザラキ「ちっ！」

では第12話！

サイコ「めんどくせえ」

ジンオウガ事件が終わったあとに引越しをさせようと思います
（あと2話ぐらいかな？）

第12話 予定外

一稀「残りは各自、自由にくんでくれ。」

ザーガ「質問！そこにジンオウガがいますがどうしますか？」

一稀「先に特訓！！」

全員「えっ……………」

一稀「な、何！？どうせ嘘だろ？」

といいみんなが指差す所を見たら…

ジンオウガ「よっ！（笑）」

一稀「い、いつのまに！」

ザラキ（ダークライ）「さっきから」

アラシ（アオアシラ）「気づかなかった？」

スリーパー「久しぶりに悪になったな」

ザキ（マニユーラ）「2人とも、俺の番をぬかないでくださいよお」

デスピー（デスピサロ）「俺っち…向こうが良かった……………」

[illegible]

サイコの多重人格をだそうかな。てかムリ多っ！

サイコ「何か言った？」

いえいえ

ジンオウガ「俺がいるだけで人格が2人いるだろうが」

一稀「いけえ！！」

「プクリン？一稀チーム」おおー――――

ジンオウガ「負けるな！行けええええ！！！」

ジンオウガチーム「おおー！ー！ー！ー！ー！ー！ー！！！」

「！！」

第12話 予定外（後書き）

用事が有るので落ち！

第13話 VSジンオウガ 前編（前書き）

サイコ「更新早いね」

ではゴーGooo↑早っ！

第13話 VS ジンオウガ 前編

バキ！ザク！ダン！ガキ！

今は大接戦中である。

サイコ「乱舞！！」

ジンオウガ「アイアンテール！！」

ガッ！

アイアンテールと乱舞がぶつかり合った。しかし体格の差でジンオウガの方が上のため、サイコはアイアンテールに当たって押しつぶされてしまう

サイコ「うつうつ……、ジンオウガ体重何kgあるんだろう……。こんな…体重で……ふまれたら………」

ジンオウガ「ふはははは（笑）」

サイコが意識を失いかけたそのとき！

ツタン「リーフブレイド！！」

ジンオウガ「うおああ！！」

ツタンが助けに来た！

ツタン「くたばるのは早すぎないか？」

サイコ「……………あ！！鎧を忘れてた！どつりで軽いわけだ」

ジンオウガ「もう、遅い！電撃砲！！」

ジンオウガの口から電撃を放った

サイコ「双剣シールド！！」

ガッ！

双剣シールドは電撃砲を跳ね返した。が、あまりに威力が高すぎてサイコの双剣の一部が破損した。

サイコ「どどどうしょく、あ！」

サイコは双剣に貼り紙を付けて

サイコ「武器転送！」

バチバチバチ！バシュ！！

武器は一瞬にして消えた。一方…

バチバチバチ……。

ライク「やつぱり……（汗）」

といって修理&強化を始めた

さっ！戻ろう

アラシ「おらああ！！」

アラシはひっかく攻撃をした。

スラリン「スラ？ストライク！！」

一方スラリンはスラ？ストライクで対抗している。
こっちは

ジーグ「暗黒斬り！！」

クツク「うわあああ！！」

バタ！

シロップ「天空の暴火！！」

ジョー「ぐああああああ！！！！！！」

バタ！

第13話 VS ジンオウガ 前編（後書き）

中途半端な所で終わった。てか今AM2:20

サイコ「本当だ」

てかジグとシロップ強っ！

では！↑また早っ！

第14話 VSジンオウガ 後編（前書き）

ついに決着！（と思う）

G O O ↑ 早っ！

第14話 VS ジンオウガ 後編

ただいま（プ？ー、10VS6、ジ）です。残っているのはサイコ、ツタン、ザーガ、ジグ、シロップ、スラリン、スライバ、プクリン、一稀、コザト、ジンオウガ、ザラキ、アラシ、デスピール、ダーマ、マーギラの16名。今のところはプクリン？一稀チームの有利だがやられたほとんどがダーマにやられている。

スラリン「最終兵器！笛〜」

ピュ〜〜〜〜

笛の音が響いた。すると…

ゴゴゴゴゴガタン！

なんと勇車スラリンガルがあらわれた。

スラリン「スライバくん、乗ろう！」

スライバ「ああ！」

スラリンとスライバはスラリンガルに乗り込んだ。

アラシ「ええー！ー！そんなのありかよ！ー！」

ドーン！

スラリンガルが勇車の剣をとばした。

アラシ「ぎゃあああー!!」

グサツ!

勇車の剣はアラシにぶつ刺さった

アラシ「ぐっ!!ここ……ま……で……か……」

バタ!

アラシは倒れた。

これを見ていたデスピーは

デスピー「よくも俺っちの仲間を……食らえ!メラガイアー!!」

巨大な火の玉がスラリングガルに当たる。

ドカーン!

スラリングガルは爆発し、スラリンとスライバは爆発の威力で倒れた。

一方コザトは

マーギラ「やるな、だが!」

ダーマ「これで終わりだ!」 ↑コザトの後ろに回り込んでいた

コザト「え!?!」

ダーマ「ダークスマツシャー!!」

コザト「うわああああああ!!!!」

コザトはダーマに倒されてしまった。
しかし

プクリン「たあああ!!!!」

マーギラ「ぐはあ!!」

プクリンが後ろから攻撃した。

マーギラ「ひ、卑怯だぞ!!」

プクリン「君達のほうが卑怯でしょ!!」

ダーマ「たしかにな。だが、貴様の命もこれまでだ!ダーク!!」

マーギラ「インパクト!!」

2匹の合体必殺技。ダークインパクト。闇の気を2匹どうじに放つ技。プクリンはどうするのか?

プクリン「ひょい!!」↑よけた

よけた…しかもその後ろには

ザラキ「悪の波…。ん?え!ええ!ええええ!!!!」

ドカーン！

ザラキに直撃し、吹っ飛んでいきました（笑）

ダーマ「怒った…。マーギラ！あの技を使っぞ！」

マーギラ「しかし…あれは、生け贄が必要ですが…、まさか……………」

ダーマ「ああ！そのとうりだ！吸収！！」

ダーマはマーギラの力を吸い取り始めた

マーギラ「っ！力が……！まあダーマ様のためだからしかたないか…………。ぐわあああああ！！」

ダーマ「吸収完了！」

ダーマは吸収を終えて上昇し始めた

ダーマ「ファイナルダークインパクトブレイカー！！」

ものすごいエネルギーが発射された。

一稀「ゲゲッ！やべーじゃん」

サイコ「そんなん知つとーと」

一稀「なぜ博多弁！？と、とにかく俺の後ろに！」

サイコ「はい！」

ファイナルダークインパクトブレイカーは一稀？プクリンチームのサイコ以外、全員にあたった。

一稀？ツタン？ザーガ？ジীগ？シロップ？プクリン「うわあああああああああ！……！」

サイコ以外はすべて倒された。

いまは（1VS3）

あきらかにサイコだけのほうが不利である。

サイコ「えええ！……！」

さてどうなるのか！？

第15話 決着！（前書き）

ついに決着！ついでにサイコのパートナー&多重人格が出てきます。

サイコ「パートナー？」

ミュウと言えバ！

ツタン「ルカリオ！」

ブー！一番最初のポケモン映画に出てきたポケモン（多^え分

てかこのままだとこいつらにネタバラシしそうなのでGoo

第15話 決着！

只今1VS3で睨みあっていた！？

サイコ「あのー…、いつまでこれを…」

ジンオウガ「サイコさんが降参するまで」

サイコ「それな言い方しても降参しませんw」

ジンオウガ「あつそ！」

サイコ「阿蘇？」

ジンオウガ「いやいや（汗）」

サイコ「じゃあ唐津？」

ジンオウガ「いやそーゆうことじゃないから」

サイコ「じゃあ糸島？」

ジンオウガ「それ作者の現在地だから」

サイコ「糸島市前原駅南…」

ジンオウガ「それ言ったらだめ！てかなぜ知ってる！？」

サイコ「作者のキャラだから」

しかし、サイコには電撃砲は当たっていなかった。サイコが目を開けてみると、ミュウツーが立っていた

ミュウツー「大丈夫か？」

サイコ「誰！？」

ダカイ「俺はダカイ、よろしくっ！」

サイコ「どうして来たの？」

ダカイ「作者にサイコのパートナーをしてくれないかと頼まれて…そして来てみたら、この状況になっててだから助けた」

サイコ「とにかくやるよ」

ダカイ「おう！」

サイコ「サイキック」

ダカイ「チャージ」

サイコ？ダカイ「インパクト！！」

すごいエスパーの気が放たれた。そのまま3人達に当たった

ドカーーン！！

シューー……

煙りが引くとジンオウガ以外の2匹は倒れていた

ジンオウガ「ふざけるな…！」

ジンオウガは電気をためはじめた。そして

ジンオウガ「うおおおおおおお！！！！！！」

帯電状態になった

ジンオウガ「電撃玉！！」

ジンオウガから放たれた2つの電撃玉はなんと黄色ではなくピンク色になっていた。しかも追跡付きw

ドカーン！

2つの電撃玉がサイコとダカイに直撃した

サイコ「ぐっ！！はぁ…はぁ…はぁ…」

ダカイ「うっ！！パートナーになったのにお役にたてなくてスミマセン……」

バタ！

といってダカイは倒れた

サイコはかすっただけだったがダカイは急所にあたっただよう

サイコ「…………ふざけるな……ふざけるんじゃないやねえええええ！！！！！」

[illegible]

サイコのアまりにもすごい気で地面が揺れている

ジンオウガ「……（思ったが俺が倒されたら、捕まえられかねない。ここはずらかるか）なかなかやるな！しかしこつちも新マップで忙しいんだ！だから行くよ、新マップで待ってるよ！全員転送」

バチバチバチ！シュン！

ジンオウガ達は消えてしまった

サイコ……ぐっ……！」

バタ！

サイコはこれまでのダメージにより倒れてしまった

第15話 決着！（後書き）

おいおい！みんな倒れたらどうするんだよ！

ライク「オレガタスケニイク」

へんだけどもぁいいや

では！

コラボ企画（無期限。気軽に言ってね）

。少し前にコラボをしようと言ったし、新マップになったのでコラボをします。気軽に話しかけてください。1人の作者で1つの街を作ってください。詳しく言いますと、コラボするキャラ（何匹でもOK）に自分達だけの街を造らせます。いろいろ良かったら他の住民まで引越してきます。（シムシティかつ！）そしていろいろな事をします。でももちろん僕キャラが造った街に住んでもOKです。街を造る場合は街に名前をつけてくださいよ。（じゃないと名無しにい〜）

それでは書く事を書く前に記号説明

「1」必ず書く 「2」あれば必ず書く

「3」書かなくてもいい

です。ルールや注意は

1、荒らさない 2、エロい事はちよつと…

3、グロは多少なら 4、作者は文章力が無いので少しキャラ崩壊しそうです

5、ポケモンやドラクエとかでガセやガセっぽいのは控えてください

6、みょうに長いです 7、説明が下手

8、小説家になろうに登録している人はメッセージをお願いします

9、小説家になろうに登録していない人はこの作品の感想からお願いします

10、キャラについては人数分書いてください

11、ともだち〜ともだち〜（え

です。まずキャラについてです。ルールや注意に同意できる人はG
o！

「1」名前、^{ニックネーム}「1」種類（ポケモンとか人間とか何でもOKゲノセクトとかもOKです）、「2」特徴（目が細いや障害など）、「1

「性別」、「2」チーム名、「1」チームメイト（チームが無い場合や単独の場合は1、それ以上の場合はその分も書いてください。ついでに誰がリーダーかも書いてください）、「2」所属ギルド、「1」性格、「1」一人称（僕や僕達など）、「1」二人称（君や君達、名前呼びなど）、「2」装備品（太刀やおでこに鉢巻きなど）、「1」技（ポケモンとドラクエの技以外は説明を書いてください）、「2」好きな食べ物や料理（なんでもOK）、「2」嫌いな食べ物や料理（なんでもOK）、「2」作れる料理（何でもOK）、「2」得意料理（何でもOK）、「2」作れない料理（なつてOK）、「1」こつちに来てやること（修行や街を造るなどなんでもOK）。僕のキャラと物語りに参加するなどもOK。めんどくさいなら。そのときになつてやることを毎話更新したときに感想にやることをかいてください。むしろそのほうが僕も楽しいです）、「2」付け足し

自由記入

次はマップについて（記号はさつきと同じ）ではGO！

「1」行く大陸（行ける大陸は人間以外が住むローラル大陸か主にポケモンとモンハンモンスターが住むソロリア大陸かドラクエモンスターやその他の生物が住んでいるバリル大陸かほぼ人間が住んでいるモクロア大陸です）、「1」住む街（自分達で街を作り住むか作者のキャラが居る街に住む（選択肢はサイコ達かスラリン達かライク達かジンオウガ達か……………ああ！面倒だからいままで出てきたキャラ何でもい）、「1」（住む街で自分達で街を作り住むと書いた人のみ）街の名前（ご自由に）、「1」建設方法は？（手とつかつるのムチでやサイコネシスでとかキャラ指定で書いてくれたほうが一番いいです）、「1」何を建てる？（家やギルドとか飛行場とかw何でも）、「2」付け足し 自由記入

多分以上です、書き忘れがあったら言います。応募方法は、なろう

に登録している人はメッセージ。登録していない人は夢と希望に
願います。では！（長くてすみません。大変でしょうがどうぞよ
ろしく願います）

第16話 お知らせ（前書き）

このときを待っていた！！！！

サイコ「張り切りすぎ」

新章、新マップ開拓編。スタート！

第16話 お知らせ

病院にて

サイコ「うつ…。こゝここは……」

サイコが目を開けると…

ミュウツタオウガ（作者、人間）「起きた？」

サイコ「うわぁ！人間だ！（しかも久しぶりの）」

ミュウツタオウガ「全員起きたらあることを話そうと思って来たんだけど…まだ起きてない人達もいるみたいで」

サイコ「あと誰？」

ミュウツタオウガ「ツタンと一稀とプクリンだよ」

サイコ「プクリン親方も話しをするの？」

ミュウツタオウガ「もち！」

そう話していると

ラッキー「作者さーん。ツタンさんと一稀さんとプクリンさんが起きましたよ〜」

ミュウツタオウガ「いまいきます」

というってサイコを抱いて3匹の所へ

ミュウツタオウガ「よっ!」

全員「さ、作者!？」

ミュウツタオウガ「皆さん、もう1人の僕相手によくここまで戦ってくれた。」

サイコ「はい…(この抱き方止めてほしい…)」↑お姫様抱っこされている

ミュウツタオウガ「話とは、新マップへ移動しようと思う」

サイコ「なんで？」

ミュウツタオウガ「自分で作ったほうが面白いから、といたいのが正確には時間空のマップが面倒くさい」

ツタン「へえ…」

一稀「もうひとりの作者は？」

ミュウツタオウガ「先に連れて行った。けど行ったとたん啞然してたw」

ザーガ「なぜ？」

ミュウツタオウガ「それは行ってからの楽しみ」

まだ、やぶあいよ

ミュウツタオウガ「だが、ルールがある。1つは自分達で開拓すること。もう1つはポケダンの元々いるキャラは行けない。正確には連れて行かせたくない」

サイコ「ギルドは？」

ミュウツタオウガ「自分達で作る」

サイコ「……無理！」

ミュウツタオウガ「しかしギルドを作るにはギルド作り認定証が必要です。ちゃんとその施設を用意しておくから」

ツタン「ほかの作者のキャラも来るの？」

ミュウツタオウガ「来なかったらデカイ大陸をどう使う」

ツタン「そうですね……」

ミュウツタオウガ「ちなみに予算は1000000Pだよ（1人分）」

サイコ「スラリンや、まめっちは？」

ミュウツタオウガ「ポケダンキャラじゃないので連れて行きます」

ダカイ「俺の事、忘れてない？」

ツタン「誰！？」

サイコ「僕の新パートナー」

ダカイ「よろしく！」

ミュウツタオウガ「じゃあね」

サイコ「連れて行かないの？」

ミュウツタオウガ「自分達で行って」

サイコ「無理！」

ミュウツタオウガ「その新マップホールがあるからそこに入れば行けるよ。けど手をつないだり、くっついとかないとはぐれるからね。じゃあバイバーイ！」

作者は行ってしまった

そして新マップホールを見ると、貼り紙が貼ってあった。

第16話 お知らせ（後書き）

サイコ「なんかほとんど進んでないね」

だつてねむた……

サイコ「では！」

ああああ！！！！

第17話 出発。そして啞然（前書き）

サイコ「あの〜。啞然って何!？」

それは行つてからの楽しみ〜

ダカイ「では第17話。スタート!」

第17話 出発。そして啞然

一番右のワープホールの貼り紙には…

一番右の貼り紙「このワープホールはローラルに続いています。この土地にはローラル王国があり、ほぼ全ての種族が住んでいます。以上（この大陸には伝説の洞窟があるから探してみてね）」

と書いてある。真ん中の貼り紙

真ん中の貼り紙「このワープホールはソロリアに続いているよ。ここには主にポケモンとモンハンモンスターが住んでいるので他の種族の方はそれを承知の上で飛び込んでね」（この大陸には伝説の森があるからね）」

と書いてある一番左の貼り紙は

一番左の貼り紙「このワープホールはバリルに続いているよ！主にドラクエモンスターやたまごっちキャラやその他の種族が住んでいる。」

と書いてある。しかも下に紙が落ちていた。読んでみると

落ちていた紙「あ！それとモクローは人間が居るから（この紙についてるボタンを押したらワープホールが出てくるから）」

みんな全ての紙を読み終わった所でみんな考え始めた

サイコ「どうする？」

ダカイ「その言葉、ツタンにそっくり返す」

ツタン「え！？じゃあザーガに回す」

ザーガ「じゃあローラル」

ダカイ「そ、それでいい？」

サイコ「問題なーし」

ツタン「同じく！」

ザーガ「んじゃ決まりっ！」

というわけで無双転生とジェネラルリーフはローラルに決まった。
デビルエンジェルとXストリームとスラーズは

シロップ「どこにするの？」

一稀「ローラル！」

スラリン「バリル！」

ジীগ「じゃあローラル」

というふうに決まった。ライクとまめっちは

ライク「まめっちは友達と同じ所に行く？」

まめつち「いえ、僕はライクさんと一緒に行きます！」

と決まった。あとのキャラは行ってからののお楽しみ！

一稀「みんな！行くぞ！」

みんな「おお——！！！」

「！！！」

といつて一斉に飛び込んだ
 まずはサイコ達から

ドカ！

サイコ「つ、着いた。けど……気持ち悪い……」

どうやらワイプホールで酔ったようだw

ツタン「看板によるとここは……」

ザーガ「どうした？」

ツタン「空き地…」

全員（3匹）「空き地！！！！！！！！？」

これはもう啞然どころじゃないようだ

「ダカイ「じゃあ……自分で作れと？」

ミュウツタオウガ「そうだけど」

サイコ「作者、いつの間に!？」

ミュウツタオウガ「ちよつと渡す物があつて、はい!工具と家や建物を作するための材料!」

すると真上から材料系が落ちてきた

ツタン「やっぱ……自分達で作れと」

ミュウツタオウガ「それ以外になにがある?」

サイコ「だよね…(汗)」

ミュウツタオウガ「ではでは!」

と言ってどっか行きました

サイコ「ど、どうする?これから」

ツタン「作るしかない」

さらにこつちでも

ミュウツタオウガ「じゃあよろしく」

一稀「いやいや!俺、建設無理だから(汗)」

ミュウツタオウガ「ではでは!」

やっぱり最後にこう言って行った
はたまたこっちでも

スラリン「僕達、どうやって作るの？手ないし」

ミュウツタオウガ「誰か手伝わせるから、ではでは！」

やはりこう言って行ったw

第17話 出発。そして啞然（後書き）

次回はそれぞれ書きます！まずはサイコ達

サイコ「あつそ」

ツタン「無理！」

ダカイ「エスパーと草がいるだけでましたと思えよ、スラリン達なんか手がないし」

ザーガ「たしかに」

ではでは！↑お決まりの台詞

第18話

無双転生&シエナリーフの建設！新住民！エイシマ

「ダカイ、さて、ん？なんか看板があるぞ！」

看板「無双とジエネラルは同じ土地だからね。広くしてるからいいけど」

「ッタン」何考えてんだろう。てか広っ！！！！！！！！！！（汗）

サイコ「プクリンのギルドの5個分以上あるよこれは」

はい（笑）

「ダカイ、やっぱ将来ギルドを経営するからじゃない？」

サイコ「それじゃあその時に増やせばいいじゃん」

「ザーガ、てか人手足りないけど、これでは……」

ツタン「たしかに4匹じゃ……」

サイコ「半年以上かかるよね、絶対」

ツタン「助っ人くると思うよ」

サイコ「かもね、さあ始めよう」

というわけで建設スタート!と、思いきや

ツタン「設計図ってどうやって作るの？1mmもずれたらダメなんでしょ？」

サイコ「たしかに（汗）」

ザーガ「簡単だろ」

と言って紙に書きはじめた

サイコ「す、すごい！」

そして少しして

ザーガ「完成！」

ツタン「早っ！（啞然）」

サイコ「でも見た所3F+B1Fだけど（汗）」

ザーガ「4匹で使うなら広くしないと！（笑）」

サイコ「1匹、1F!!!!!!!!!!!!!!!!!!?（汗）」

ザーガ「イエー！」キラーン ↑効果音

サイコ「ヒソヒソヒソヒソ（ザーガってこんな性格だったわけ?）」

ツタン「ヒソヒソヒソヒソ（昔から（汗））」

ヒソヒソ話をしているサイコとツタン。ダカイは

ダカイ「俺2F!」

サイコ「乗ってる!？」

話しに乗ってた

ツタン「もういいや。僕は3F」

サイコ「僕は秘密基地つばくB1F!」

ザーガ「じゃあ俺が1Fで決まりっ!」

結局みんな乗ってるし(汗)

ツタン「さて改めて建設しよう!!!」

全員「おお——————!!!!!!!!!!」

ついに建設開始!と、また何かあったようだ

ブライト「ここかぁ。新しく住む場所は」

エイシア「そうね。作者から急に引越せなんて言われたけど、これもいい思い出になるわよね」

説明しよう!この2匹。リーダーのエーフィのエイシア(♀)とブラッキーのブライト(♂)。チームの名は月光。どうやら作者に言

われて来たようだ

エイシア「あれ？どうやらすでに住民が4匹いるようね。って！ブライトの奴、もう行ってるし」

サイコ達は設計図に夢中で月光には気づいていないようだ。そこへ

ブライト「やあ！こんにちは〜！」

ツタン「うわあ！ビックリしたあ」

ブライト「君達も作者の気まぐれな思いつきで来たのかい？」

サイコ「思いつきは無いと思うよ。結構頑張ったって言ってたし」

ブライト「え？そうだったの？」

おいおい（汗）

エイシア「お前ー！！！！作者に変な事言ったら殺されかねないわよ！！！」

ブライト「ス、スミマセン！姉ちゃん！」

ダカイ「ね、姉ちゃん！？もしかして」

エイシア「あたしの弟だけどなにか（殺気MAX）」

ザーガ「ではお詫びにあなた方の家を作ってあげましょう（怖い！殺される！）」

エイシア「ありがたい！よろしくね　もちろんあたしも手伝っけどね」

ザーガ「ありがとうございます！」

サイコ「ヒソヒソヒソヒソ（ザーガって接客上手だね）」

ツタン「ヒソヒソヒソヒソ（僕も知らなかった）」

ザーガ「それで何F建てがいいですか？」

エイシア「そうね、2F建てでいいわ」

ザーガ「ではどこに建てますか？」

エイシア「あんた達の向かい側で」

サイコ「答えるの早っ！（汗）」

エイシア「迷うのが嫌いなので（笑）」

ダカイ「へえ〜」

サイコ「てか早く始めないともうすぐ夜だよ」

そつ、いまの時間は4：25である

エイシア「で食べ物は？」

サイコ「知らない」

どうやら食べ物はないようだ

エイシア「じゃあ捕ってくるね」

全員「おい！（汗）」

みんな同時につっこんだ

ツタン「じゃあちよつと南に向かったら森があつたから、そこから
リンゴとかいろいろ食べれそうな物をとってきて」

エイシア「分かったわ。ブライト！行くわよ！」

ブライト「は、はい！」

と言って南にある森にまで行った

第18話

無双転生&mp・ジェネラルリーの建設！〜新住民！エイシマ

3DSが値下げになった　ああああああああああ！！！！！！

サイコ「前書きとテンションすごく違うなおい」

あ！コラボしようと思います。詳しくは活動報告では！

第19話

無双転生& a m p・ジェネラルリーフ& a m p・月光の建設！〜

サイコ「夕食か、何か心配」

ツタン「たしかに（汗）」

では第19話

サイコ「はあ…」

第19話

無双転生& a m p・ジェネラルリーフ& a m p・月光の建設！〜ニ

ザーガ「まずテントを作るぜ」

サイコ「たしかに、寝る所がないとね」

というわけで最初はテント作りから

サイコ「ここをこうして…」

ダカイ「これをこんな感じにすればいいか？」

ザーガ「いいよ」

さて、テントを作ってる間にエイシア、ブライトを見てみよう

ブライト「姉ちゃん、これ食べれる？」

と言ってブライトが見せた物は大根（え

エイシア「食べれるわよ」

ブライト「そういえばこれ何て言う食べ物？」

エイシア「大根」

ブライト「へえ〜」

という会話をしながら食べ物集めをして1時間後…

エイシア「今回の収穫はオレンの実×5、大根×2、みかん×4、
リンゴ×12、バナナ×5、水×10、以上ね」

ブライト「じゃあ戻ろうか」

一方、サイコ達も

サイコ「出来た…」

ツタン「疲れた」

テント造りで疲れ果てた様子。そこへ

エイシア「ただいま」

ブライト「いっぱい取ってきたぜ」

チーム「月光」が帰ってきた

エイシア「じゃあ夕食作るわね」

ツタン「よろしく」

早速作り始める。前に

エイシア「火は？」

全員（サイコ以外）「あ……………」

サイコ「多分炎使える」

ツタン「多分って（汗）」

サイコ「じゃあ燃える物を持ってきて」

というわけで杉やらなんやら持ってきました

サイコ「いくよ……………、メラ！」

と唱えると小さな火の玉が出てき、萌（燃）える物に当たり燃えはじめた

ダカイ「燃え…たけど、ドラクエの魔法じゃん」

エイシア「どうやって覚えたの？」

サイコ「なんとなく」

会話はなんとなく終わり、燃える物を集めはじめた

ツタン「そういえばみんなはどこに行ったんだろう」

ダカイ「大半はこの大陸だったけどね」

ツタン「でも僕達の後にも結構居たらしいよ、作者から聞いた」

ダカイ「そういえばこの頃作者の更新%（率）低いよな」

ツタン「新キャラ設定に予想以上に手間取っているんだって」

ダカイ「へえ〜」

な、何その納得のしかた

サイコ「向こう何話しているんだろう」

ザーガ「知らない」

サイコ「てか建設に何十話位使っただろう…」

ザーガ「20話位いくんじゃね？」

サイコ「でもなんか縮めそう」

ギク！

ザーガ「居たんだ…」

まあ

サイコ「じゃあどうして」「じゃないの？」

……………では！

サイコ「逃げた…」

そして

ツタン「これ位あれば明後日まで大丈夫だと思うよ」

エイシア「じゃあ料理を始めるわよ」

第19話

無双転生& a m p・ジェネラルリーフ& a m p・月光の建設！〜

サイコ「遂に料理が…」

さて今回は、エイシアの料理が！

サイコ「不味い」

エイシア「失礼ね」

第20話

無双転生& a m p・ジェネラルリーフ& a m p・月光の建設！〜て

サイコ「とうとう夕食」

ツタン「味はどうなんだろうね」

ブライト「姉ちゃんの料理、けっこう美味しいよ」

ザーガ「へえ〜」

あ！それとサイコ達の出番は次の話で一時的休み！

ダカイ「良かった」

サイコ「次は誰だろう」

では丁度第20話！

ブライト「腹減った」

1 時間後

エイシア「出来たわよ」

木でできた手作りのテーブル（ツタンが作った）に料理が置かれた

ツタン「何か思ってたより美味しそう」

エイシア「なに？そんなに私が料理下手だと思った？（怒）」

ツタン「いや……そういうわけじゃ……」

エイシア「よっぽど殺られたいようね（激黒）」

何か怖い

ツタン「……………」

あまりの怖さに声がでないツタン

エイシア「エスパースラッシュ!!!!!!」

ピンクの衝撃波を作り、ツタンに飛ばした

ツタン「えっ……ええええっ……!!!!」

ドカーーーーン!!!!!!!!!!!!

あまりにも急で驚きを隠せない様子

エイシア「……………ひつく……………ちょっと……………思い出し泣きして……………（泣）」

ザーガ「昔なにかあったんだ…。じゃあそのことを話してくれないか？結構すつきりするぜ」

まずは落ち着かせようとしている

エイシア「そう……………だね……………。じゃあ……………まず私の……………作った料理を食べなよ……………（涙）」

ツタン「そうだね」

10分位たち、エイシアとブライトが落ち着いたところでみんな座り

全員「いただきます！」

サイコ「ばく！もぐもぐ…。うわぁ！これめっちゃ美味い！！」

ツタン「本当！？じゃあ僕も。ガッツ！ムシャムシャ…。まじだ！。すげえ美味い！」

ブライト「さすが姉ちゃん！もぐもぐ」

あまりの美味しさに…

（15分後）

サイコ「あゝ美味しかった」

ツタン「あつという間だったね」

エイシア「なかなかでしょ？」

第20話

無双転生&amp;シエネラルリーフ&amp;月光の建設！〜て

これ書きながらポケダンの「ずっと わすれない」とかを聞いてたら泣けてきた（涙）

サイコ「意外と涙もろいんだね、作者は」

次回はエイシアとブライトの過去を
では！

第21話 エイシアとブライトの過去（前書き）

ついに明らかに！そしてサイコ達の出番はこれで一旦お休みです

サイコ「疲れた」

でも主人公だからでるのは普通じゃね？

ツタン「たしかに」

では第21話！

サイコ「……………」 ↑ 24時間テレビを鑑賞中（え

第21話 エイシアとブライトの過去

エイシア「じゃあそろそろ話すね」

ツタン「よろしく」

エイシア「それは2年前…」

私達はフロック村に住んでいたの

エイシア「お母さん！友達の家に行ってくるね」

母^{リーフィア}「行ってらっしゃい」

ブライト「お姉ちゃん！俺も行きたい」

私は今日友達と遊ぶ約束をしていたの。友達の家は隣の村にあったけど、そんなに距離はなかったわ。そして出発して10分

ブライト「後どれくらい？」

エイシア「もうすこしよ」

そして話しているとき

ダッダッダッダッ

2匹のポケモンが通り過ぎた。ジュカインとライチュウだった。少し違和感があったけど特に気にもせずには歩き続けて5分後

エイシア「着いたわ」

ピンポーン

????「はい！」

ガチャ！

ピジョン「おっ！きたきた！」

ブライト「久しぶり！シーガン！」

シーガン「ブライトまで来てたか！まあ上がって」

エイシア「お邪魔します」

ブライト「お邪魔しまーす」

私とブライトは友達の家にながって、いっぱい遊んだ

エイシア「エヘヘッ（笑）」

シーガン「アハハハ（笑）」

ブライト「ワハハハ（笑）」

楽しい一時を過ごした。しかし……

シーガン父「大変だ！……フロック村が2匹のポケモンに襲われて

るぞー！！」

エイシア「えっ……。ど、どういう事！？お母さんは大丈夫なの！？誰が襲ったの！？」

シーガン父「多分襲った奴はチーム「サザンバースト」だろう。メンバーはリーダーがライチュウのオウラ、あとジュカインのバディルだ！」

エイシア「そ、それって……」

シーガン父「どうしたんだ？」

エイシア「ここに来るときにすれ違った……」

シーガン父「それより逃げろ！直にこの村にも来る！」

エイシア「でもお母さんが……うわあああああ！」

私は急いでフローク村に向かった

ブライト「お姉ちゃん！俺も行く！」

エイシア「来ないで！あんたが居ても邪魔になるだけよ」

そしてフローク村に着いて私は言葉を失った。

エイシア「みんな倒れてる……家とかも燃えてる……。お母さんは！？」

急いで家に戻ったら

エイシア「お前等は……………オウラとバディル！！私達の村から出てよ！！！！」

オウラ「全員を抹殺したらな」

エイシア「私のお母さんはどこ！」

バディル「もう殺したぜ？ほら」

そして見ると血だらけになったお母さんが倒れていた

エイシア「お、お母さん！！なんてことを！！！！」

オウラ「だからどうした。お前ももう死ぬんだよ！バディルよろしく」

バディル「はいはい。リーフブレード！死にな！」

グサ！

エイシア「ぐはっ！」

リーフブレードが背中からお腹に貫通した。痛い！意識も遠くなっていた

エイシア「私の……………っ！はあ……………はあ……………お母さんを……………っ！はあ……………返して……………」

バタ！

私はとうとう意識を失ってしまった。

オウラ「ふんっ！これでこの村は全部だな？」

バディル「だろうな。次の村へ行くよ」

オウラ「だな」

そして起きたら

エイシア「……………うつ！……………私…生きてる」

ブライト「お姉ちゃん、起きた？」

エイシア「ブライト……………っ！……………まだ傷が……………」

ブライト「そうですね。貫通してたんだから」

そして1ヶ月後

私の傷も完全に治った。そしてブライトにこういう提案をした

エイシア「ねえ…探検隊を組まない？。私……………悔しいの。誰も助けられなくて。どう？」

ブライト「いいねそれ。賛成！」

そして強くなる為に探検隊を結成した…

エイシア「……というわけ」

サイコ「そんな事があつたんだ……」

ツタン「でも僕達も、もう仲間だよ。だから一緒に倒そうよ、サザンバーストを！」

サイコ「そうだよ！」

ダカイ「だな！」

ザーガ「2人よりいっぱいいたほうがね」

エイシア「ありがとう。でも今どこにいるかが……」

サイコ「大丈夫！作者に吐かせる」

ブライト「それ……いいの？」

ツタン「大丈夫！」

ツタン「じゃあもう出発！！」

全員「ええっ！？」

エイシア「いいわね」

サイコ「じゃあ……」

全員「出発！！」

第21話 エイシアとブライトの過去（後書き）

はあ……。一夜中ずーっと書きました、これ。

サイコ「これで出番が終わった！」

次はライクとまめっちです
では！

第22話 ライクとまめっちの武器の素材集め！〜訪問客〜（前書き）

サイコ「あれ？建設しないの？」

見ればわかる。それと勝手な理由で休止してしまいすみません

サイコ「たしかスーパーポケモンスクランブルだったよね。どこまで進んだの？」

エンディングまで行って、ワールドランクは4

サイコ「結構行ったね。じゃあでは第22話」

ツタン「ちなみに作者、今回途中で3DSで書いたそうです」

第22話 ライクとまめっちの武器の素材集め！〜訪問客〜

話し変わってここは……？ここは……

ジンオウガ「おい！どうした！！」

ここ………嘆きの森………だよな

ジンオウガ「そうだけど何？」

何故森ごと移動してるんだよ……！！

ジンオウガ「文句あんのか？ぶちのめしてやろうか？（黒怒）」

いえ何も…ではやり直し

ジンオウガ「では始める（ ）」

〜テイク2〜

ここは何故か嘆きの森……。その奥地に1匹のポケモンと1匹のたまごっちが居た。ポケモンの方はライクというストライク。名前の由来は好きという英語のlikeだ

ライク「余計だ！／＼」

一方たまごっちの方はまめっちという。実験が好きで何時も実験を

している。が失敗が何回か…

まめっち「にしても驚きましたね。森ごとワープするなんて」

ライク「まあ作者のおかげだ。にしてもあんなに資金をもらったんで一度元の方へ戻って色々買ってきてしまったな」

まめっち「そのおかげで森中に監視カメラを設置できましたけどね」

としゃべってた時に

ビーーー！ビーーー！！

いきなり警報が鳴った

ライク様、まめっち様。6名、客で御座います

ライク「お！モニターにだしてくれ」

「ブウン」の音と共にモニターに監視カメラの映像が映しだされた。1匹目がうすいピンクの体に長い尻尾のミュウ、どうやらサイコのような。2匹目は白い体に紫の尻尾のミュウツ、ダカイド。3匹目は緑と肌色の体に緑で……

ライク「知ってるから説明しなくていい」

そうですか…

ライク「にしてもどれぐらい強くなったかみてみたいな」

まめっち「というと」

ライク「仕掛けを使うんだよ、侵入者用の」

まめっち「いけないんじゃないんですか？」

ライク「あとでみんなにいいものあげるからいいの」

どうしてそんなにご機嫌なのでしょう

ライク「聞いて驚くなよ……。実はある事に成功したのだ！」

ある事とは？

ライク「タイム……たりやー！」↑まめっちが話を止める為に攻撃した

ライク「何をする！？」

まめっち「ここで「タイムマシン」なんて言ったら読者さんにはれます」

ライク「……………」

……………言いましたよ？

まめっち「うわああああ！やっちゃいました（泣）」

〈2分後〉

ライク「森内放送ON！」

放送のスイッチをいれて

ライク「無双転生とジェネラルリーフと……………」

エイシア「月光です」

ライク「すまない、では改めて。無双転生とジェネラルリーフと月光の諸君！お前達にちよつとした試験に挑んでもらう。見事成功したらいいものをやる！」

「いいものはなんだろう…」と思った6匹が言った事は

無双・ジェネラル・月光「ポケ？」

ライク「もつといい物！ではスタート！！」

第22話 ライクとまめっちの武器の素材集め！〜訪問客〜（後書き）

3DSで初めて書いた感想。使いにくい！でも『とか？とかもあるからいい

ツタン「良かったね」

じゃあでは！

第23話 ライクの試験でサイコ達苦戦！？その1（前書き）

ライクの気まぐれな試験です

ライク「乗り越えられるかな？」

サイコ「楽勝！！」

では第23話

サイコ「でも何か嫌な予感（汗）」

今回も新キャラ登場！

しかも驚きのキャラも登場します

第23話 ライクの試験でサイコ達苦戦！？その1

ライク「いい忘れてたけどルールは1匹で行動すること。俺の所へ着いたら良いもの殺ろう……じゃなくて、やろう」

全員「ええ〜」

ライク「ではスタート!!」

と同時にエイシアは走り始めた

サイコ「速っ！」

続いてツタンが

ツタン「イェーイ(< >)」

テンションMAXで出発

サイコ「なんか楽しんでる」

次はザーガが

ザーガ「何が来ようと殺るのみ」

スゲエやる気を持ちながら出発

サイコ「怖っ！」

これで皆出発した。一番最初にスタートダッシュをしたエイシアは……

エイシア「ポケ♪ポケ♪」

どんだけポケが好きなのやらするといきなりそこへ

ヒトモシ「やあ、ライクの試験で来たんだね？」

しれーっと現れたヒトモシ

エイシア「うわあ！てかあんた誰？」

ヒトモシ「僕はヒトモシのトーンさ！」

エイシア「でなに？」

トーン「あれ？案内役って言ってなかったっけ？」

これを聞いてエイシアは思った。「こいつ、キモいし天然。めっちや嫌いなタイプ」と

トーン「さあこちらです」

エイシア「はい……」

案内をしてもらった。このあとにヤバい奴が待ち構えてるとも知らずに……

く2分後く

いきなりトーンが

トーン「ここから敵が出ますがよろしいでしょうか」

と言ってくるので

エイシア「はいはい」

と答えた。その時エイシアはトーンが少し笑った気がしたと言う

さてエイシアがトーンと出会った同じ場所で……

ツタン「そういえば敵全然いないな……ということは……」

もわもわもわ↑ツタンの妄想が浮かんでくる音

ツタンの妄想『敵いない』楽勝』

楽勝』良いもの

良いもの』新しい

技マシン

新しいマシン』

強くなる』

もわもわもわ↑ツタンの妄想が消えていく音

ツタン「頑張るぞ！」

どいう妄想だよ（汗）

と妄想してる時に

ポカブ「やあ、君はツタ……ンだよね……」

ポカブが現れた！

ツタン「もちろんそうだけど」

ポカブ「良かったあゝ」

ツタン「何が良かったんかい！」

ポカブのリアクションに突っ込む

ポップ「申し遅れたけど俺はポカブのポップだ！」

ツタン「無視するんかい！」

また突っ込む

ポップ「ちなみに俺は案内役だから」

ツタン「だから無視すんな！しかも初めから言え！！」

ジンオウガ「テレビ局を造ろうかな。コイツ等面白いし」↑作者の代わりに言ってくれましたゝ（＾o＾）まあ僕の一部だけだねww

W
W
W

ツタン「ポップ！とにかく行くよ！！」

ポップ「はい……」

ツタンとポップは出発した

その10秒後

ザーガ「あれツタンじゃん。でも隣のポカブは……誰？」

すると

ミジユマル「君はザーガだね」

ザーガ「そーだけど」

ハル「僕は作者の実の弟、ミジユマルのハルだよ」

ザーガ「……………作者の実の弟！！？？」

ザーガは驚きを隠せない。それもそのはず作者の本当の弟ですから
(まあ実際の名前は少し違うけどね)

ザーガ「で何の用事で来たの？」

ハル「ライクが案内役をしてって言うから仕方なく……」

ザーガ「呼び捨て！？」

実際も作者の事をお兄ちゃんではなく呼び捨てで呼んでくる

ハル「じゃあ行こう！」

ザーガ「は、はい……」

ザーガは心配しながらついていった

ちなみに今エイシアはというと…

エイシア「……………どんだけ敵がいるの!?!」

少なくとも30は居る

エイシアは大丈夫なのか！

第23話 ライクの試験でサイコ達苦戦！？その1（後書き）

これ一部ネカフェ（インターネットカフェ）書いています
でもパソコン書きにくいWW

サイコ「マジかWWW」

てか新キャラWWWWWW

ツタン「あれは意外だったな」

ではまた！！

第24話 ライクの試験でサイコ達苦戦！？その2（前書き）

さて久しぶりの更新ですね

サイコ「何してたの？」

色々と

ツタン「へえ〜。サボりとかじゃないの？」

ギク！と、とにかく第24話！！行くよ♪たあ——————

サイコ「プクリンの真似！？」

第24話 ライクの試験でサイコ達苦戦！？その2

エイシア「どうしよう……」

相変わらず相当の量の敵に囲まれている

エイシア「ここまでなのかなあ……」

諦めかけたそのとき！

???「諦めるなんてらしくないですよ」

声が聞こえてきた。しかしその声は回りからは聞こえてない。心の中に語りかけている

エイシア「そ、その声は！お母さん！？」

エイシアの母「そのとおりです。にしてもあの頃より大きくなりましたね。あの頃は……」

5分後 長かったのでカット

エイシアの母「それと諦めるなんて……小さい頃は負けず嫌いだっただんですけど……とは言ったものの敵がこれじゃあ無理ですね（笑）」

この時エイシアは

エイシア「（お母さんってこんな性格だったけ？）」

と思った

エイシア「じゃあ何しにきたの？」

エイシアの母「ピンチだから新しい技を授けようと思ってね」

エイシア「本当に！？ありがとう！！」

エイシアはすごく喜んだ

エイシアの母「いくよ！それ！！」

すると空から光った粉がエイシアの所に降ってきた

エイシア「なんか力がわいてきた！お母さん大好き！！」

エイシアの母「じゃあもう行かないと。ばいばい…エイシア！」

この言葉を最後に声は聞こえなくなった

エイシア「頑張らなきゃ！」

気合いをいれた。目には涙がたまっていたが

エイシア「行くよ！ブイドラント！！」

相手に向かって走りだした。するとすぐに白いオーラのようなものがでてきた。

最初に相手にするのは岩、地面タイプのゴローン。もしノーマルタ

イプだと効果はいまひとつ。しかしゴローンに当たる寸前に白いオーラから青いオーラに変わった。

実はこの技の効果、必ず効果抜群。ブイズに伝わる伝説の技

エイシアはそのまま技を続け、1分30秒後には全てを倒した

エイシア「はぁ……はぁ……やっと全て倒した」

エイシアはヘトヘトのようだ

ちにみにエイシアのいる所のすぐ近くにある木の影にツタンが隠れています

ツタン「エイシアってあんなに強かったんだ…」

感心してる。ちなみに（「ちなみに」2回目）エイシアにはすでに

エイシア「そこにいるのは最初から分かってるよツタン!!」

バれていた

ツタン「あれ？気づいてた？」

と言いながら出てきた

ちなみに（3回目ww）エイシアが囲まれてた時から居ました

トーン「まあもうすぐ最後の場所ですし一緒に居ても構いません」

エイシア「そういえば1人行動って事を忘れていたね」

ポップ「俺の事も忘れないでくれよ」

ツタン「誰？」

ツタンはわざとボケたつもりだったが……

ポップ「そ、そんなあゝ！忘れるなんてひどいよあゝ（号泣）」

マジで泣き始めた

ツタン「嘘だって！ポップでしょ？」

ポップ「わゝゝゝい！」

ツタン「（コイツ子供みたいだな）」

そして会話も終えて4人で歩き始めた

そして10分

トーン・ポップ「到着しました」

遂に到着した。着いた所はもう森の面影すらなかった

ツタン「器械ばかりだね」

エイシア「正確には、ほぼ器械じゃない？」

ツタン「言えてるw」

とその時「ウィーン」とリフトの音と共に

ライク「君達おめでとう!」

ツタン・エイシア「どういたしまして」

ライク「あとは4人だな」

10分後

ザーガ「ちよろいちよろい」

ザーガが到着した。案内役はナルガクルガのようだ

その2分後

ブライト「強ういー敵がいっぱいだっ たよ……」

ブライトが帰還!案内役はベリオロスだ

またその1分後

ダガイ「楽しかった♪」

ダガイが着いた。案内役は………

ツタン「あれ?案内役は?」

ツタンが訪ねる

ダガイ「ここにいるじゃん」

と言って指を指した。しかし誰も居ない…と思ったその瞬間
キラッと一瞬体が見えた。そう案内役はオオナズチなのだ！（いや
分からないから！）

エイシア「なんか一瞬見えたよね？」

ダガイ「それよりあとはサイコだな」

そして5分後

ライク「……………来ない…」

さらに5分後

ライク「……………来ない（汗）」

そしてその10後にやっと

サイコ「つ、着いた……」

バタ！

サイコはボロボロの状態を着いてそのまま気絶した

ツタン「だ、大丈夫！？」

しかし返事がない

ツタン「ちょ…！（汗）」

ミュウを見てみんな驚いた

全員「さ、作者！？」

作者^{ミュウ}「そーだけど」

ダガイ「何故作者が！？」

作者「まあちよつと……」

ブライト「そういえばミュウとジンオウガってどう使い分けるのか？」

作者「気分で（笑）」

一方サイコが倒れている所では……

????「忘れられている…（TOT）」

1匹のピカチュウが居る

ピカチュウ「まいっか！戦わなくて済むし」

切り換え早っ！（汗）

ライクの方では…

作者「てか縄ほどいて」

ツタン「1つ聞くけど…作者って戦力になるの？」

作者「多分なる」

というわけでほどいた

ライク「さて話しがまとまったようだな。ではいでよ！ブラ……」

第24話 ライクの試験でサイコ達苦戦！？その2（後書き）

ライク「おい！！！！！！！！」

ではまた！

サイコ「それは早すぎ」

え！そーなの！？

サイコ「うんそーなの」

えーっと今回は2196字書きました。え？ブラって何かって？それは来週のお楽しみ！では！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7913s/>

ポケモン不思議のダンジョン 夢と希望

2011年11月11日19時53分発行